

公 益 社 団 法 人

福岡県作業療法協会会報

第121号 平成27年10月15日発行

(事務局)

〒802-0816 北九州市小倉南区若園2丁目6-21 ルミエール若宮101号

T E L 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 許山 勝弘

ホームページアドレス : <http://www.fuku-ot.org/>



特集： 認知症病棟における認知症の人と家族への支援
～前編 家族介護者に対する心理教育～



巻頭言：	生活行為向上マネジメントの普及について	・・・1
	公益社団法人福岡県作業療法協会 副会長 座小田孝安	
会長行動		・・・1
特集：	認知症病棟における認知症の人と家族への支援	・・・2
	～前編 家族介護者に対する心理教育～	
	大和大学 保健医療学部 作業療法学専攻 菅沼一平	
理事会議事録		・・・6
各部・委員会からのお知らせ		・・・10
Occupation	株式会社ライト総合ケアサービス 木下 博光	・・・12
リレーエッセイ		・・・13
	スマイクリーワークステーション八幡 松田 真由美	
	新行橋病院 北 将和	
会員動向調査		・・・15



巻 頭 言 「生活行為向上マネジメントの普及について」

公益社団法人福岡県作業療法協会 副会長 座小田孝安

「生活行為向上マネジメント：Management Tool for Daily Life Performance」（以下MTDLP）の開発は平成20年度より日本作業療法士協会が取り組み8年を経過しました。この間、更なる開発と普及に取り組んできましたが、今年3月末での概論（基礎研修）修了者は8,586名（17.6%）、事例までとなると657名（1.4%）です。

しかし、このMTDLPの考え方は、今年4月の介護報酬の改定におきまして、「活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進」が大項目の1つに挙げられましたが「MTDLP」の考え方の流れをくむ「生活行為向上リハビリテーション」が通所リハビリテーションの加算になり、また訪問リハビリテーションでは「社会参加支援加算」が新設されたことにより作業療法士以外にも報酬と直結しているので注目度が高まり、全国デイケア協会や全国老人保健施設協会等の研修会が多く行われているところでもあります。

また、「MTDLP」は介護保険領域に限定されたものではなく、発達分野領域、精神障害領域、その他作業療法士が関わるほとんどの分野で使えるツールとして開発を進めております。最近ではリハ医学会において医師が作業療法を説明するのに「MTDLP」が使われ始めたことが先日中村春基日本作業療法士会会長から説明を受けました。

9月3・4日に、「MTDLP」を作業療法教育において導入することが急務であることから「教員向け生活行為向上マネジメント研修会」が福岡で行われ九州各地の養成校から多くの教員が参加していただきました。今後、学校教育において「MTDLP」が取り入れられ広がっていくと思われます。しかし、問題は今現在医療機関や介護施設等で働いている作業療法士に普及することが急務であります。福岡県作業療法協会においても研修を組んでいますが教える側が少なく多くの研修が組めない状況ですがブロックを中心に徐々に進めていきたいと思っております。先日の教員研修で紹介されていましたが、鳥取県の基礎研修受講者が複数回受講された方もいますが会員数444名に対し527名（118.7%）の受講率には驚かされましたが、少しでも後を追っていききたいと思います。

会長行動（平成27年7月～9月）

7. 25. 平成27年度第3回47都道府県委員会 出席
26. 場所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター
7. 31. 平成27年度第1回福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 出席
- 場所：福岡県古塚合同庁舎
8. 3. 平成27年度第3回福岡県作業療法協会理事会 出席
- 場所：公益社団法人福岡県作業療法協会事務所
8. 6. 平成27年度第2回北九州市障害支援区分認定審査会調整委員会
- 場所：北九州市総合保健福祉センター
8. 29. 一般社団法人宮崎県作業療法士会創立30周年記念式典、祝賀会 出席
- 場所：ニューウェルシティ宮崎
9. 5. 一般社団法人日本作業療法士協会 第1回地域包括ケアシステム推進委員会 出席
- 場所：一般社団法人日本作業療法士協会事務所
9. 9. 介護予防・日常生活支援総合事業についての福岡県モデル事業の実施説明
- 場所：北九州市立総合療育センター

認知症病棟における認知症の人と家族への支援

～前編 家族介護者に対する心理教育～

大和大学 保健医療学部 作業療法学専攻 菅沼一平

【はじめに】

介護保険導入当初の理念は「介護の社会化」であり、介護は家族の役割や義務という「私的領域」から、社会全体で介護の問題を共有し担っていく「公的領域」へ移行するものであった。しかし、現状の介護保険サービスは家族主体による介護を前提とし、それを補完する程度のものである¹⁾。介護に関連した虐待、自殺心中、殺人などが後を絶たない²⁾ことから家族介護者への支援は未だ不十分であるといわざるを得ない。

このような背景の中2015年1月27日、厚生労働省より認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が公表され³⁾、その柱の一つとして認知症の人の家族介護者への支援が掲げられた。具体的には初期集中支援チーム、認知症カフェ、介護教室により介護負担を軽減し、支援を強化するというものである。今後、国家戦略として地域包括ケアシステムに実現を目指していくうえで家族介護者の支援は「住み慣れた地域で生活の継続」に直結するものであり、我々作業療法士（以下、OT）はもちろんのこと福祉・介護の各専門職も一体的に取り組むべき重要課題の一つであるといえる。

筆者は今津赤十字病院の認知症病棟（以下、病棟）にて、家族支援の一環として入院認知症患者の家族介護者を対象に、家族会の企画・運営をしてきた。それは単なるピアサポート（同じ立場にある当事者同士が、互いの経験・体験を基に語り合い、相互支援すること）活動にとどまらずにOTと看護師（以下、Ns）、精神保健福祉士（以下、PSW）が中心となり、医者（以下、Dr）、理学療法士（以下、PT）、介護士（以下、CW）と協業して家族介護者に提供する心理教育アプローチである。本稿では、筆者の経験に基づき入院認知症患者の家族介護者の心理状態について述べるとともに、病棟における心理教育の実践について紹介する。

【心理教育の概要とエビデンス】

心理教育（Psychoeducation）は家族の心理面に配慮した教育的アプローチといった意味で用いられ、患者を含めた家族に働きかけることからFamily Interventionとも呼ばれている。元来、統合失調症患者とその家族を対象として発展してきた家族支援アプローチであり、プログラムは疾患の知識を伝えるための講義、実践的な疾病への対処法、問題解決技法で構成される^{4, 5)}。先行研究では感情表出から発展した家族介入研究で、統合失調症やうつ病の再発予防に効果的であることが報告されており⁶⁾、近

年では認知症の人の家族介護者^{7, 8, 9)}、がん患者^{10, 11)}、糖尿病患者¹²⁾など統合失調症以外の疾患にも応用されている。認知症の人の家族介護者を対象とした先行研究ではMartinら¹³⁾やPahlavanzadehら¹⁴⁾が家族介護者の介護負担感軽減やQOL向上に効果的であることを示しており、Livingstonら¹⁵⁾のシステマティックレビューにおいても質の高いエビデンスが得られた介入である事を報告している。しかし本邦においては実践報告^{6, 7)}やシングルケースによる介入^{16, 17)}に留まっており、今後、積極的な家族への介入とともにその成果が問われる領域でもある。

【家族会】

筆者らは心理教育実施の際、「家族会」と称して家族に参加を呼びかけている。介護の主体となるのは「家族」であり、それをキーワードとして前面に出しつつ、これからの介護に前向きに進んでもらいたいという意味も含めている。前述のように本邦では心理教育の効果を示す論文は少ないものの、民間の団体である「認知症の人と家族の会」はピアサポートでの活動を主体としながら、制度やサービスの推進など全国的な活動を展開している。一方で病院、老人保健施設においても各施設が独自に取り組んでいる場合が多く、これらの多くはピアサポート活動と同時に教育的なアプローチも実施しているため、より心理教育的な性格が強い。内容や手法、手順などは運営団体によって様々ではあるが、いずれにしても共通の目的としては「心理的ケア」、「認知症の理解と対応力の向上」に帰結する。

【家族介護者の心理状態】

筆者の所属していた病棟においては、入院時点で家族介護者が心身ともに極限まで追いつめられているケースが殆どであった。これらのケースでは相談相手もなく、一人で介護上の問題を抱え込んでいることが多く、また社会資源についても知識が乏しく在宅サービスに頼らずに介護を頑張ってきた方もしばしばみられた。

在宅介護は認知症の進行とともに半ば義務化され、これまでの家族関係から介護者・要介護者としての関係性が少しずつ強くなる。家族介護者は介護者として認知症を抱えている要介護者を理解し配慮しようとする一方で、家族として相手に対するもどかしさを常に感じている。それは時に要介護者に対する叱咤や暴言など感情的な形となっ

て表出され、家族介護者はそこで自己嫌悪に陥るが、再び問題が生じたときにはこの一連の流れを繰り返す負のスパイラルとなるのである。これは介護プロセスの中でしだいに、家族の思いと本人の思いがかけ離れてしまった意図せざる結果の行為であるにとらえる必要があり¹⁾、我々はそこにある苦悩や葛藤を重く受けとめたうえで、共感、共有する姿勢をもち、単純な疾病教育にとどまらない「心理」教育を実践していく必要がある。

【心理教育の中核】

上記のような悪循環に陥る原因の一つとしては、家族介護者側の認知（思考、被介護者の行動や限度意に対する受け止め方）が起因していることが挙げられる。例えば、「何度も同じことを聞いてくる」認知症の方に対して、家族介護者は認知症の症状として理解しようとする一方で「わざと言っている」という歪んだ認知が根底にあれば、それは苛立ちを生み、感情的な関わりとして行動化され悪循環へと陥る（図1）。心理教育では家族介護者自身が自分の思考に気付き、認知の修正を図るように働きかけ、行動変容を目指す。認知の修正から行動につなげる際に重要となるのが「自己効力感」¹⁸⁾である。自己効力感とは自己に対する信頼感や有能感である。ある行動を起こそうとするときに「自分はこれならできる」という思いが行動を引き起こす。以下に紹介する心理教育は認知の修正から自己効力感を得て、「認知症の人への適切なかわり」という行動変容へと導くものである。

「わざと言っているんだな」

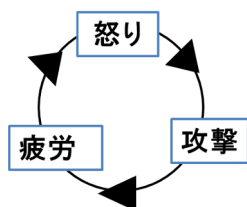


図1 認知と行動の悪循環

【病棟における心理教育的プログラムの紹介】

心理教育の要素は1. 情報提供、2. 問題解決（対処技能の増大）、3. ソーシャルサポート（ピアサポート）、である¹⁹⁾。ここではGoldsteinらのBehavioral Family Management (BFM)²⁰⁾をベースに病棟の実情に合わせて改変したものを紹介する²¹⁾。プログラムは1. 講義、2. 家族介護者同士の交流会、3. Social Skills Training (以下、SST)、の3セッションで構成される。1セッションにつき90分で、各セッションは1週間隔をあけて行われる。運営スタッフはOT、Ns、PSW、CWであり、企画、相談の段階ではDr、PTも加わる。参加者は10～20名程度である。家族介護者の気づき→認知の修正→自己効力感向上→行動変容を目指して、①講義にて知識を身

につける、②交流会で心理面のケアと介護の振り返りをする、③SSTにて自己効力感を得て実践的な対応法を身につける、と連続性を持たせている。

1. 講義

目的は認知症の人を介護していくうえでの知識向上および情報の伝達である。OTが認知症のリハビリテーション、Nsが認知症の症状理解とかかわり方、PSWが社会資源について、各30分講義をする（図2）。内容は認知症関連の医学的知識（症状、経過、治療）、BPSDへの対処法、作業療法、理学療法場面の紹介、介護保険サービスの紹介などである。最近では市町村や民間団体が主催する認知症関連の研修会も増え、インターネットでも容易に情報が収集できることから、10年前の参加者層と比べて認知症介護について豊富な知識を持つ家族介護者が増えてきている印象を受ける。一方で介護場面において感情的になる家族もいれば、介護保険の申請方法も知らないという家族もいる。参加者の知識や特性の差は介護歴の長さや介護者の年齢、パーソナリティ、教育歴なども影響しているため、その点に配慮しながら家族介護者がどのような情報を欲しているか見極めて講義内容を決めている。



図2 講義

2. 家族介護者同士の交流会

目的は心理面のケアである。具体的には家族介護者同士の交流を促進することで、孤独感の軽減とともに安心感を得てもらうことである。他にも自分の思いを吐き出すことによるストレス発散、情報交換による知識の向上、介護の振り返りや気づきも付加効果として期待できる。1グループ5～8名ほどでスタッフも加わるが、自助グループとしての機能を持たせているため原則スタッフは意見や指示的な発言は控え、家族介護者同士で現在抱えている課題や心情、これまでの介護体験などを語ってもらう（図3）。家族介護者の日頃の

思いや本心を引き出しやすく、ケア効果はかなり高い。

グループ内のメンバーの組み合わせについては、家庭内での立場、続柄、悩みの内容、パーソナリティなどを考慮して決める。効果の大きさはグループの組み合わせ次第という側面もあるため、グループ決めについては事前に家族の評価を十分にしたうえで、グループもしくは個人に対してどのような効果を狙うのかを明確にイメージしながら決めていくことが重要である。



図3. 交流会

3. SST

目的はBPSDを含む認知症の人の行動への対応法を身につけることである。7～8名の1グループに対して司会進行のスタッフ1名（リーダー）、リーダーを補助するスタッフ1名（コリーダー）で実施する（図4）。

流れは、①開会のあいさつ、②ウォーミングアップ（軽体操とミニゲーム）、③SSTの目的と内容の説明、④テーマ決定、⑤ロールプレイ、⑥ポジティブフィードバック、⑦ディスカッション、⑧2回目ロールプレイ、⑨2回目ポジティブフィードバック、である。場の雰囲気や和らげつつ①～③まで進み、④にてBPSDについて自宅で困ったことをグループ内で話しながら、テーマを一つ決める。続けて⑤では、BPSD発生時の状況（いつ・どこで・誰と・何をしているとき・どんなことで困ったか）を場面設定し、普段の対応を当事者である家族介護者に実演してもらう。そして⑥では実演した対応について一度グループ内でポジティブフィードバックを行い、⑦のディスカッションでさらに良くなる点や他の対応法はないか意見を出し合う。⑧にてディスカッションの意見を参考についで再度実演してもらう。最後の⑨では新たな気づきや成功体験からエンパワーメントにつながるように、最後にもう一度ポジティブフィードバックを行う。

テーマでよく挙がるのが「何度も同じことを言う」、「すぐに怒る」、「もの盗られ妄想」、

「徘徊」などである。簡単すぎるテーマは極力避けるべきだが、逆に家族関係の深刻な問題に触れるような難しいテーマでもSSTは成り立たなくなる。事前に参加者に質問紙調査を実施し、SSTの流れがどのようなものになるかイメージしておくといよい。それでも議論が盛り上がらない、もしくはグループ内での雑談が始まり収拾がつかなくなることもしばしばあり、リーダーは手に汗を握るような状況に追い込まれることがある。そこでコリーダーの役割が重要となり、コリーダーが参加者に発言を促す、もしくは意見をまとめて軌道修正を図るなど、場の整理をすると進行がスムーズにいきやすい。



図4. SST（ロールプレイ場面）

【病棟における現状の課題と今後について】

前述のように入院時点で家族介護者もバーンアウト寸前の方も多いため、心理教育プログラムによって認知症の理解を促し、良いケアについて情報提供をすることがかえって家族を追いつめている可能性があることを忘れてはならない。認知症医療における心理教育介入は何をもって効果といえるのか、単純に転帰（自宅復帰か施設入所か）だけでは量りしれない葛藤や苦しみを家族は抱えている。そのため、現状の病棟での心理教育介入の目的は在宅復帰を目指す一助とする一方で、施設入所予定の家族介護者に対しても、これまでの介護をねぎらい心理面のケアを図るものとなっている。しかし、今後は新オレンジプランの柱の一つとして初期集中支援チームが全国的普及されていくことから、早期発見・早期対応のもと病棟では認知症重症度における初期の患者や介護経験の浅い家族介護者が増えていくことも予想される。それに伴い病棟では短期集中での治療・ケアが求められ、当然、家族支援のあり方や方針も、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける」ための支援としてより明確な意義をうちだせなければならない。認知症の生活支援は「当事者中心」とすると同時に「家族中心」であることを再考する必要がある。

【参考文献】

- 1) 矢吹知之：家族介護者を支えるための視角と方策．認知症ケア学会誌，13（3）：553－559（2014）．
- 2) 厚生労働省：平成24年度 高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果．<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304500-Roukenkyoku-Ninchishougyakutaiboushitaishakusuishin-shitsu/h24chousakekka.pdf>：（2013）．
- 3) 厚生労働省：認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに 向けて～（新オレンジプラン）．http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304500-Roukenkyoku-Ninchishougyakutaiboushitaishakusuishin-shitsu/01_1.pdf：（2015）．
- 4) Anderson CM, Hogarty G, Reiss DJ: Family treatment of adult schizophrenic patients: A psychoeducational approach. Schizophr Bull, 6: 490－505(1980).
- 5) Anderson CM, Grifiin S, Rossi A, et al. : A comparative study of the impact of education vs. process groups for families of patients with affective disorders. Fam Process , 25: 185－205 (1986).
- 6) Kavanagh DJ: Recent developments in expressed emotion and schizophrenia. Br J Psychiatry, 160: 601－620(1992).
- 7) 高橋幸男：認知症への非薬物療法 心理教育（サイコエデュケーション）．老年精神医学雑誌，18(9)：1005－1009(2007)．
- 8) 松田修：老年医学とサイコエデュケーション 高齢者の認知症とサイコエデュケーション．老年精神医学雑誌，17: 302－306(2006)．
- 9) 藤本直規，奥村典子：認知症の人の家族支援もの忘れクリニックにおける家族支援．認知症ケア事例ジャーナル，4(3) 257－268 (2011)．
- 10) 中村千珠，河瀬雅紀：がん患者への心理的サポートプログラム作成に向けての基礎的研究 患者の現状とニーズの把握．心身医学，47(2)：111－121(2007)．
- 11) 高橋恵子，白井教子：悪性腫瘍患者を対象とした心理教育グループの意味 再発した患者が参加したグループ・プロセスの分析から．日本看護学会論文集： 精神看護，36：267－269(2006)．
- 12) KimWoe Sook, 坂野雄二：慢性疾患患者に対する認知行動的介入．心身医学，36(1)：27-32(1996)．
- 13) Martin CM, Martin MF, Valero CP, et al. : Effectiveness of a psychoeducational intervention program in the reduction of caregiver burden in Alzheimer's disease patients' caregivers. Int J Geriatr Psychiatry, 24(5)：489－499(2009)．
- 14) Pahlavanzadeh S, Heidari FG, Maghsudi J, et al. : The effects of family education program on the caregiver burden of families of elderly with dementia disorders. Iran J Nurs Midwifery Res, 15(3)：102－108(2010)．
- 15) Livingston G, Johnston K, Katona C, Paton J, et al. : Systematic Review of Psychological Approaches to the Mnagement of Neuropsychiatric Syntoms of Dementia. Am J Psychiatry, 162(11)：1996－2021(2005)．
- 16) 結城千晶：認知症高齢者を介護する家族の心理的介護負担感軽減のためのアプローチ ケアマネジャーによる認知行動療法を取り入れた個別家族支援プログラムの試みと一考察．病院・地域精神医，54(2)：155－157 (2011)．
- 17) 松本一生：在宅痴呆高齢者と虐待 介護を拒否する夫への心理教育．家族療法研究，19(2)：149－154(2002)．
- 18) 大嶋伸雄：PT・OT・STのための認知行動療法ガイドブック リハビリテーションの効果を高める．13－17，中央法規，東京（2015）．
- 19) 小林清香：高齢者におけるサイコエデュケーション．老年精神医学雑誌，17(3)：267－271 (2006)．
- 20) Goldstein MJ, Miklositz DJ: Family intervention for persons with bipolar disorder. New directions for mental health services disorder. New directions for mental health services, 62: 23－35 (1994)．
- 21) 菅沼一平，上城憲司，白石浩：認知症高齢者の家族介護者に対する心理教育介入－ソーシャル・スキルズ・トレーニングの効果について－．認知症ケア学会誌，13(3)，：601－610 (2014)

平成27年度 第3回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成27年8月3日(月) 19時00分～22時00分
II. 場所 : 公益社団法人福岡県作業療法協会 事務所
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 18名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 佐藤稔
手島智康, 大田登志樹, 平岡敏幸, 深町晃次, 棕学美, 沖雄二, 轟木健市
玉野和男, 有久勝彦, 福田裕樹, 濱本孝弘, 許山勝弘(以上, 理事)
吉田秀樹(以上, 監事)
田邊慎一, 藤崎実知子, 鐘ヶ江秀俊(以上, 事務局)
欠席者氏名 : 榎本孝史, 田中真純, (以上, 理事) 原口健三(以上, 監事) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 平成27年度現職者共通研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

鐘ヶ江秀俊氏(療養介護事業所ひなた家)
青山克実氏(麻生リハビリテーション大学校)
榎本孝史氏(北九州リハビリテーション学院)
町田真一郎氏(アイエック訪問看護ステーション)
音琴慎一氏(福岡和白リハビリテーション学院)
榎井剛士氏(健康リハビリテーション内田病院)
佐野幹剛氏(九州栄養福祉大学)
森光洋子氏(北九州リハビリテーション学院)
大丸幸氏(九州栄養福祉大学)

2. 教育部地域分野研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

地域分野研修会の以下の講師変更について報告.

→承認

田嶋浩俊氏(福岡県庁保険医療介護部高齢者地域包括ケア推進課)

3. 教育部老年期分野研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

岩野歩氏(コールメディカルクリニック福岡 医師)
黒木勝仁氏(原病院 作業療法士)
吉田健氏(九州保健福祉大学 作業療法士)

4. 教育部発達分野研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

黒澤淳二氏(大阪発達総合療育センター 作業療法士)

5. 第20回福岡県作業療法学会の企画イベント講師の承認について(有久学術部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

鶴丸礼子氏(独立ブランド「Bra bee」主宰 服飾デザイナー)

6. 第20回福岡県作業療法学会の一般公開市民講座の承認について(有久学術部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

樋渡啓祐氏(樋渡社中株式会社 代表取締役)
江尻慎太郎氏(ソフトバンクコマース&サービス)

7. ハートメディア（福岡市精神保健福祉啓発事業）研修会における講師の承認について
（志井田代表理事）

事業部担当理事から以下の講師依頼の提案があったとの報告。 →承認
星野仁彦氏（福島学院大学副学長）

8. 3士会合同訪問リハビリテーション実務者研修会講師の承認について
（福田保険委員会担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
村井千賀氏（厚生労働省 作業療法士）
大森政美氏（戸畑共立病院 言語療法士）
靱井剛士氏（健康リハビリテーション内田病院 作業療法士）
竹下真大氏（デイサービスセンターすばる 理学療法士）
宮本香織氏（良創夢 作業療法士）
松本直人氏（福岡県介護支援専門員協会 専務理事）

9. 筑後ブロック研修会講師の承認について（轟木筑後ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
上城憲司氏（西九州大学リハビリテーション学部 作業療法士）

10. 筑後ブロック研修会講師の承認について（轟木筑後ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
川原大和氏（筑後市立病院 作業療法士）

11. 筑後ブロック研修会講師の承認について（轟木筑後ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
原麻理子氏（国際医療福祉大学 作業療法士）

12. 福岡東ブロック研修会講師の承認について（大田福岡東ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
豊島宇茂氏（福岡和白リハビリテーション学院 作業療法士）

13. 筑豊ブロック研修会講師の承認について（平岡筑豊ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
川辺千津子氏（医療福祉専門学校 緑生館 作業療法士 高次脳機能障害について）
靱井剛士氏（健康リハビリテーション内田病院 作業療法士）

14. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
須田竜太氏（Q-ACT 精神保健福祉士）

15. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告。 →承認
近藤敏氏（広島都市学園大学 作業療法士）

16. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事）

福祉用具の情報や活用法を多くの会員に伝えるためブロックで開催される研修会において
後半10~15分を使用して福祉用具プラザ北九州から情報発信をしてもらうことについて報
告。 →承認

17. ジャーナル「作業療法・福岡」第14号における巻頭言・特集の執筆依頼者の承認について
(有久学術部担当理事)

以下の執筆依頼について報告.

→承認

黒木勝仁氏 (第19回福岡県作業療法学会 学会長)

建木建氏 (聖隷クリストファー大学 作業療法士)

山根寛氏 (「ひとと作業・生活」研究会)

18. ホームページのリニューアルについて (許山広報部担当理事)

ホームページ閲覧者の声を反映するため来年度事業としてホームページのリニューアルを検討しておりスケジュール等計画・予算の提案があった. リニューアルを行うことについては承認. 内容の詳細は継続検討.

→承認・継続検討

19. ホームページの月額管理費について (許山広報部担当理事)

ホームページの月額管理費プランについて提案.

→継続検討

20. 作業療法フェスタ (仮称) について (志井田代表理事)

平成28年度作業療法啓発事業として作業療法フェスタ (仮称) の開催について事業部より提案があったとの報告.

→継続検討

21. 保健福祉部平成28年度新規事業と事業内容の整理について (濱本保健福祉部担当理事)

現事業と新規事業の整理統合を行うことについて提案. 地域包括ケアシステムやMTDLPへの対応, 会員の育成も考慮し継続検討する.

→継続検討

22. 多発性硬化症 (MS) 患者の作品展への寄付と広報のお願いについて

(玉野北九州ブロック担当理事)

平成27年11月14日 (土) ディーキューブギャラリーにて行われるMS患者の作品展案内を会員に広報する.

→承認

23. 正会員の入会承認について (中川事務局長)

平成27年6月から7月までの間に81名の入会があった.

→承認

VII. 協議事項

24. 日本作業療法士協会代議員候補について (志井田代表理事)

任期満了に伴い平成27年度内に日本作業療法士協会代議員選挙が行われることについて報告. 県協会理事会からの候補について検討.

→承認

25. 会員推薦 (派遣) 事業に向けての業務分担について (志井田代表理事)

地域包括ケアシステムへの積極的な参画に向けて業務分担の提案.

→承認

26. 事例検討会の事務手続きの流れについて (轟木筑後ブロック担当理事)

事例検討会の事務手続きの流れについて提案. 現在, 教育部・事務局が中心となって事務手続き方法の統一をすすめているため情報を教育部 (担当青山氏) に集約して検討していく.

→承認

VIII. 報告事項 (特記報告のみ記載. 他, 資料参照とする)

27. 代表理事行動について (志井田代表理事)

平成27年6月~7月の代表理事行動について報告.

28. 県協会宛て依頼案件について (志井田代表理事)

平成27年6月1日~7月31日までの間に県協会宛てに19件の依頼 (研修会案内依頼4件, 講師・委員推薦依頼8件, 共催・後援依頼4件, その他依頼3件) があった.

29. 福岡県作業療法協会役員・代議員改選への準備について（志井田代表理事）

平成28年4月公示にて改選される。

30. 47都道府県委員会報告（志井田代表理事）

47都道府県委員会（東京にて開催）の報告。

31. 平成28年度予算・事業計画案提出の依頼（中川事務局長）

平成28年度予算・事業計画案について平成27年9月15日までを締切として事務局へ提出するよう報告。

32. 教育部主催研修会開催予定（白山教育部担当理事）

主催研修会及び生涯教育関連研修会開催予定について以下のように報告。

地域分野研修会	平成27年10月4日（日）
老年期分野研修会	平成27年11月1日（日）
身障分野研修会	平成27年11月8日（日）
発達分野研修会	平成28年1月10日（日）
現職者選択研修（精神分野）	平成27年9月12日（土）
現職者共通研修（第1回）	平成27年10月24日（土）
（第2回）	平成28年2月13日（土）

33. 第20回福岡県作業療法学会の進捗状況について（有久学術部担当理事）

第20回福岡県作業療法学会の準備状況について報告。現在演題募集中。平成28年2月13日（土）19時からナイトセミナーを開催。

34. ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画について（有久学術部担当理事）

ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画の進捗状況について報告。現在投稿論文募集中。

35. 福岡県作業療法協会表彰規程について（手島規約委員会担当理事）

表彰規程について検討中。

IX. 次回開催日

平成27年度 第4回理事会

日時：平成27年10月5日（月）19：00～

場所：株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン

各部・委員会からのお知らせ

【教育部】

- 主催研修会開催報告
 - 精神分野研修会：現職者選択研修
日 時：平成27年9月12日（土） 9:30～16:00
会 場：専門学校麻生リハビリテーション大学校
テーマ&講師：
テーマ1：『精神障害作業療法の基礎知識』
深町 晃次 OT（九州栄養福祉大学）
テーマ2：『精神障害作業療法の展開方法』
松本 信雄 OT（水戸病院）
テーマ3：『精神障害作業療法の実践』
青山 克実 OT
（専門学校 麻生リハビリテーション大学校）
テーマ4：『精神障害作業療法関連トピックス』
榎本 孝史 OT
（北九州リハビリテーション学院）
参加数：86名（内 他県士会OT 6名；長崎3名，
鹿児島2名，山口1名）
- 今後の主催研修会開催予定（日程・会場）
 - 分野別研修会
 - ①地域分野研修会：H27.10.4（日）
【テーマ】
地域包括ケアシステム構築に向けたOTの役割
【会 場】 福岡医健専門学校
 - ②老年期分野研修会：H27.11.1（日）
【テーマ】 リスク管理
【会 場】 宗像水光会総合病院フィットネス
センター地域交流室
 - ③身障分野研修会：H27.11.8（日）
【テーマ】 住宅改修
【会 場】 麻生リハビリテーション大学校
 - ④発達分野研修会：H28.1.10（日）
【テーマ】 活動・参加につなげるために
【会 場】 麻生リハビリテーション大学校
 - 生涯教育制度関連研修会
 - ①現職者共通研修：第1回：H27.10.24（土）
【会 場】 麻生リハビリテーション大学校
 - ②現職者共通研修：第2回：H28.2.13（土）
【会 場】 九州芸文館（福岡県OT学会と共催）

【福岡ブロック】

- 事業企画会議開催：7月16日，8月18日，9月17日
- 広報部
 - 「Joy Style 夏号」7月20日発行
 - Facebook：随時更新中
- 教育学術部
「障がい者の運転支援について」
講師：松原麻子先生
（広島市立リハビリテーションセンター）
日時：8月20日（木） 19：00～20：30
会場：福岡赤十字病院 椎木記念ホール
参加：70名

エリア会

- 城南地区エリア会
「運動器のリハビリテーションについて」
講師：許山勝弘先生
（福岡リハビリテーション病院）
日時：7月21日（火） 19：00～20：30
会場：福西会病院
参加：18名
- 中央地区エリア会
「自動車運転の取り組みについて」
講師：清水慎吾先生
（香椎丘リハビリテーション病院）
日時：9月29日（火） 19：00～20：30
会場：香椎丘リハビリテーション病院
- 福岡県医師会「県民健康づくりセミナー」講師
派遣・運営
「認知症高齢者が生き生きと暮らすために～生活を豊かにするリハビリのヒント～」
講師：鎌田陽之先生
（医療法人 福西会 介護老人保健施設
ケアセンターひまわり苑）
日時：8月11日（火） 14：00～15：00
会場：福岡県医師会館
参加：32名

【筑豊ブロック】

- 事業企画会議
第3回筑豊ブロック事業企画会議
日 時：平成27年8月10日（月）19：00～20：30
会 場：飯塚記念病院 グランドホール
参加者：10名
内 容：第3回，第4回筑豊ブロック研修会に
ついて
市民向け啓発活動について，他
- 研修会
第2回 筑豊ブロック研修会
日 時：平成27年8月5日（水）19：00～21：00
テーマ：ケーススタディをベースとした
認知症作業療法実践
講 師：上城憲司先生
（西九州大学リハビリテーション学部）
参加者：38名
- 第3回 筑豊ブロック研修会
日 時：平成27年9月2日（水）19：00～21：00
テーマ：高次脳機能障害の評価，治療に
ついて
講 師：川邊千津子先生
（医療福祉専門学校 緑生館）
参加者：64名
- 広報誌
筑豊OT TIMES 第13号 平成27年7月15日発行

【北九州ブロック】

ブロック企画会議開催

平成27年7月13日(月) 19:00～

(公社)福岡県作業療法協会事務所

平成27年9月 7日(月) 19:00～

(公社)福岡県作業療法協会事務所

第1回北九州ブロック全体研修会

日 時：平成27年7月5日(日) 15:20～17:15

会 場：小倉リハビリテーション学院

テーマ：「地域包括ケアシステム構築に向けたOTの役割」

講 師：宮永 敬市氏

(北九州市保健福祉局地域支援部健康推進課)

参加者：51名

第1回事例検討報告会開催

日 時：平成27年7月5日(日) 13:00～15:15

会 場：小倉リハビリテーション学院

講 師：靱井 剛士氏(健康リハ内田病院)

坂口 聡子氏

(コールメディカルクリニック福岡)

演題数：9演題

参加者：40名

第26回全国ふうせんバレーボール大会実行委員会 発会式

平成27年7月30日(木) 18:30～

北九州市障害者スポーツセンター アレアス

＜小倉北・門司エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年8月11日(火) 19:00～

新小文字病院 すみれ寮1階会議室

第4回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成27年9月4日(金) 19:00～

会 場：北九州市立男女共同参画センター

ムーブ 大セミナールーム

テーマ：

「障害を抱えながらも、住み慣れた場所で安
して暮らすための支援とは

～希望と意味のある生活を目指して～」

講 師：須田竜太氏

(Q-ACT 精神保健福祉士)

参加者：62名

＜小倉南・京築エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年6月10日(水) 19:00～

曾根東市民センター

第3回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成27年8月28日(金) 19:00～

会 場：九州栄養福祉大学

小倉南区キャンパス

テーマ：「認知症の作業療法～QOL概念と治療
的介入方略～」

講 師：久野真矢氏

(帝京大学福岡医療技術学部 作業療法学科教授)

参加者：83名

＜八幡西・遠賀・中間エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年8月21日(金) 19:00～ 八幡厚生病院

健康福祉祭り企画会議

平成27年8月24日(月) 19:00～ リハデイ吉木

＜八幡東・戸畑・若松エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年6月16日(火) 19:00～ あやめの里

＜広報部＞

事業企画会議開催

平成27年8月26日(火) 19:00～ 和菜屋

体に合った車いす・目的に合った車いす
をご提供します
車いす・介護用品・福祉用具レンタル

本社／福岡市中央区天神 5-4-15
営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目 9-20
TEL／092-938-2208
HP／<http://www.takisyokai.co.jp>



タキ商会



株式会社ライト総合ケアサービス 木下 博光

「OTとは何か」．最近やっと悩まなくなりました．20年前，熊本リハビリテーション学院を卒業し，意気揚々と病院に就職しました．しかし，その頃はまだOTの認知度は低く，また，一人職場だったこともあり，自分自身も「OTらしさ」がよくわからず，答えを探しながら突っ走っていたように思います．

縁あって，精神科病院・身障系病院・OT学科教員・通所介護事業と貴重な体験をさせて頂きました．10年の病院勤務でも，「OTらしさ」がよく理解できませんでした，臨床を離れ，学生とのかかわりや地域での活動を通じて，少しずつ「OTらしさ」がわかってきた気がします．

現在私は起業し，通所介護施設を運営しています．以前，故吉田隆幸先生とのお話の中で，「対象者を最後まで支え続けたい．その為に地域に行く．」とおっしゃっており，非常に感銘を受けました．最後まで支えるためには・・・やはり現場は地域です．

「地域」という言葉も，実は最近までピンときませんでした．しかし実際に地域で働くことで，多くの側面から理解が出来るようになってきました．本人の意思・家庭環境・家族・病状・金銭・資源・制度などなど，地域を構成するものは非常に多くあります．ICFが導入され，障害ではなく「個人の包括的な理解」が重要視されています．しかし，ICIDHの時代でも，OTは包括的にとらえる事ができていたように思います．そのような「OTの特性」は，地域での活動に非常に向いており，重要な役割を担えるのではないかと感じています．障害が重度でも，支えがあれば在宅生活を継続できます．しかし，現状は老々介護，または独居高齢者が多く，「崖っぷち」の生活とも感じます．元気にデイサービスに通っていた方も，本人以外の原因で在宅生活ができなくなり，急にかかわりが終了してしまうことがこれまで何度もありました．もどかく，悔しく，無力感でした．

「本人の意思を尊重する」ことは，OTにとっては当然のように染みこんだ職業特性です．OTとして，最後まで本人の意思を尊重した，総合的な支援ができる仕組みを作りたい．その思いが強くなり，先に起業していたPTである兄の助けを借りて，独立を決意しました．

宗像市にある当デイサービスは有料老人ホームと併設しています．有料老人ホームは，地域に残るための「最後の砦」ではないでしょうか？地域の安全な環境に住み，最期まで馴染みの土地で生きる．最後まで支えるためには，有料老人ホームとデイサービス・訪問介護などの総合的なサービスが必要不可欠だと思います．

さて，私は以前から「廃用予防」に力を入れています．私が思う「Occupation」は「動くこと」です．とにかく動かせたい．動かなくなる仕掛けを作りたい．座っているだけの「あずかりデイ」にはしたくないと思い，試行錯誤しています．その取り組みのとして，施設内通貨の導入や，毎日利用者へのフィードバックなど行っています．また，サービスが押し付けにならないよう，デイサービスの3ヶ条を作っています．「自分のことは自分で決める」「できる事は自分で行う」「元気で健康なからだを維持する」この3ヶ条を職員・利用者の共通目標としています．時間に追われ，わかってはいるものの，つい手伝ってしまうこともあります．その為，「過介助は罪」であることを常々話題に挙げ，スタッフ全員で意識するようにしています．「共に考え，共に苦勞し，共に喜ぶ」弊社の理念です．誰かの歌のようですが，我ながらとても「OTらしい」と思います．独立したはいいものの，介護保険制度に振り回され，書類に追われ，また，漠然と襲ってくる不安の中，毎日悩み，苦しんでいます．それでも何とか頑張っていけるのは，相談に乗ってくれる仲間や職員，また，利用者からも支えてもらっているからだ．今回の執筆を通じて改めて気付くことができました．これからも「共に」喜べるよう，考え，苦勞していきたいと思います．



リレーエッセイ

NP0法人 列島会 スマイクリー ワークステーション八幡

松田 真由美

OTって楽しいことや好きなことを患者さんと一緒にしながら治療する職業なんだ～!!と、安易にこの世界の扉をたたいて十数年。回復期病棟や維持期病棟、老健や訪問リハを経験する中で、作業ってなんだろう、地域で暮らすとは？と考えている中、ふとしたご縁でこの法人に入職しました。

NP0法人列島会は、障害福祉サービス(就労支援、生活介護、ヘルパー、ショートステイ)と介護保険サービス(デイサービス、ヘルパー)と賃貸(障がい者、高齢者、リハ学院の学生)を行っている法人です。

私の所属するワークステーション八幡は、H25.9に障害福祉サービスの就労継続支援A型・就労移行支援の多機能型でオープンしました。主な仕事内容は、厨房・清掃・洗濯業務を委託で行っています。この世界に入るまで障害福祉の知識がほとんどない私が、立ち上げから関わる機会を頂きました。初めは、現場に入り作業をひたすら行っていました。利用が増えるに従い、現場の職員さんに利用者をどう知ってもらうか、どのように情報共有しようかいろいろ悩み、試行錯誤していましたが、現場の職員さんは障害云々



ではなく、一人の人として接しており、意外と難しく考えていたのは自分だけだったと気づくこともありました。その中で、障害特性や気を付ける点、導入の段階(作業負荷)について、一緒に話し共有することで、現場でイキイキと仕事をしている利用者を見ながら、こんな職場環境がいろんなところに広がり、障害を持った人たちの働く場が増えていけたらと思っています。どうしたら、作業がしやすいか、どのような指示だったらスムーズに動けるか、どんな環境だったら最大限能力を発揮できるか、作業療法の視点で利用者さんに関わったり、現場の職員や一般の障害雇用を検討している企業にわかりやすく話ができたたりできるのも、作業療法の強みだなと感じる今日この頃です。

今年、当事業所から一般就労につながることができました。定着するまで、まだまだ課題はあるかとは思いますが、地域社会で障害があるなしに関わらず、働き、生活をし、人生を楽しめる環境を提案できる様になりたい!と思いながら日々仕事をしています。

社会医療法人財団 池友会 新行橋病院 リハビリテーション科
北 将和

皆さん、こんにちは。私は、福岡県の東部に位置する行橋市という場所にある社会医療法人財団 池友会 新行橋病院で作業療法士をしています。(写真左下段端)当院は平成10年に149床にて開院し、平成23年8月には医療用ヘリポートを新設、現在は246床(ICU14床、HCU12床、一般181床、回復期リハ39床)まで増床して行橋市・京築地域の救急医療を行っています。リハビリテーション科では急性期から回復期までのリハビリテーションを行っています。整形外科班・脳神経外科班・内部障害班・回復期班と4つの班にわけPT41名、OT28名、ST7名、看護師1名、クラーク2名、合計79名のスタッフで患者様へのリハビリテーションと日々の業務にあたっています。その他にも平成24年から癌リハも開始しています。作業療法士として働きだして7年目になりますが時間が経つのは早いものであつという間でした。各班で多くの経験を経て、現在は回復期班に所属しており脳血管疾患・整形外科疾患の患者様の作業療法を行っています。9月には病棟と連携して敬老会を実施しました。その他にも七夕会やクリスマス会などの行事ごとを積極的に行うことで入院によるストレスの軽減や楽しみ、季節感を感じてもらえれば幸いです。病院のまわりは田舎で家屋調査に行った際には昔ながらの家が多く住宅改修には頭を悩ませることも多々ありますが患者様が笑顔で退院するのを見るとやりがいを感じます。病院内ではまだまだ理学療法士と作業療法士の違いが他部署に理解されていないのが現状です。まずは、当院内で作業療法とはどんなものなのか、理学療法とはなにが違うのかということを広く知ってもらえるように努力していきたいと思います。最後に、作業療法士として患者様に何ができるか、何をしなければいけないのかを考えながらアプローチを行い、作業療法を行えることの喜び・楽しみを感じていきたいです。



福岡市医師会訪問看護ステーション

- 【募集職種】 理学療法士・作業療法士
(訪問リハビリ)
- 【募集人員】 若干名
- 【雇用形態】 ①嘱託職員(産休育休代替職員)
※雇用期間 H27. 10. 1～H28. 8. 31
②常勤臨時職員 ③非常勤職員
- 【給 与】
①月額平均約25万円(諸手当含む)賞与・交通費支給
②時給1,200円+出勤料500円～1,000円/回+650円/回
③出勤料930円～3,560円/回+650円/回
- 【勤務時間】
①②月～金9:00～17:00土曜(隔週)9:00～13:00
③時間内に直行・直帰可能
- 【休 日】 日曜・祝日 8/14～8/15 12/30～1/3
- 【福利厚生】 ①②各種社会保険完備
- 【勤 務 地】 東部：博多区千代 中部：中央区大宮
西部：早良区南庄
※産休育休代替職員は中部
- 【応募方法】 TEL092-852-1512(まずはお電話ください)
一般社団法人 福岡市医師会
在宅医療課/万代(まんだい)・林
(平日 9:00～19:00 土曜 9:00～13:00)

高齢者総合支援センター やまびこ

- ・リハビリ特化型デイサービス 大黒荘
- ・グループホーム「やまびこ」
- ・有料老人ホーム・デイサービス「やまびこ」

- 【募集職種】 作業療法士(機能訓練指導員)
- 【募集人員】 2名
- 【雇用形態】 常勤・非常勤(各1名ずつ)
- 【給 与】 **基本給160,000～
手当含む支給総額220,000～(経験年数等により算定)
*時給1,000～(パートタイムの場合)
- 【賞 与】 **2ヶ月分(8・12月人事考課制度により算定)
- 【勤務時間】 9:00～18:00*時間応相談可(～16:00,～17:00など)
- 【休 日】 土日、もしくは配置によりシフト制
- 【福利厚生】 **社会保険等完備
- 【そ の 他】 交通費 当社規定により支給(上限150,000)

駐車場 無料 研修期間3ヶ月

【備考】

中規模事業所での機能訓練業務です。地域密着のリハビリテーション機能を備えた入所施設で、介護予防から中重度介護者まで幅広く支援できます。現在リハビリ体制構築中で、作業療法士5名体制で、センターのリハビリ機能を担っています。産休のための人員補充です。

【連絡先】

〒835-0104 福岡県みやま市山川町河原内1224

TEL:0944-64-9700 担当：大田黒 靖之

*パートタイムの方のみ **正社員のみ

医療法人清水会 京都リハビリテーション病院

- 【募集職種】 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
- 【募集人員】 若干数(3年以上の経験者)
- 【雇用形態】 常勤
- 【給 与】 (初任給)223,000円～
(資格手当・職務手当含む)
- 【賞 与】 年2回(3.25ヶ月分)
- 【勤務時間】 8:30～17:00
- 【休 日】 4週8休、年末年始4日間(年間108日)
特別休暇、有給休暇
- 【そ の 他】 交通費は月50000円まで支給
- 【備 考】

来年3月に回復期病院を開院。病院と合築で老健を併設。回復期～生活期のリハビリを提供していきます。作業療法士については、役職希望者も募集。

【連絡先】

医療法人 清水会 法人本部

〒612-8322 京都市伏見区榎屋町622

TEL:075-623-4143

mail: personel@fushimi-shimizu.jp

担当：山本・濱本

伊都地区複合福祉施設

- 【募集職種】 機能訓練指導員
- 【募集人員】 1名
- 【雇用形態】 常勤
- 【採用時期】 平成28年4月
- 【給 与】 244,200円～264,500円
(資格・時間外裁量手当含)
- 【賞 与】 年2回(3.3ヶ月分)
- 【勤務時間】 ①07:30～16:30 ②08:30～17:30
③10:30～19:30 ④17:30～08:30(宿直)
※基本は②。①③の可能性あり。
- 【休 日】 4週8休 特別休暇5日(年末年始・夏期)
- 【福利厚生】 各種社会保険完備
- 【そ の 他】 交通費・宿直手当
- 【備 考】 特別養護老人ホーム(デイサービス含)における入居者等への機能訓練・指導
- 【勤務地】 福岡市西区徳永北154
(JR九大学研都市駅下車徒歩2分)

【連絡先】

社会福祉法人 ふくおか福祉サービス協会

住所：福岡市西区姪浜駅南4-12-12 ワコービルⅡ3階

電話番号 092-894-5333

FAX 092-894-5334

担当者名 祝原 尊徳

調査期間 (2015. 5. 31～2015. 9. 1)

福岡県作業療法協会 会員数2,727名 (正会員:2,451名 自宅会員:276名)

<入会>							：2015年8月
西岡	華子	北九州中央病院	：2015年6月	津川	拓己	福岡市民病院	：2015年6月
佐々木	大輝	南ヶ丘病院	：2015年6月	稲毛	浩徳	香椎丘リハビリテーション病院	
今川	桃太朗	小倉記念病院	：2015年7月				：2015年5月
小林	雄大	小倉記念病院	：2015年7月	伊藤	早紀	香椎丘リハビリテーション病院	
宮永	敬市	北九州市保健福祉局健康推進課					：2015年6月
			：2015年5月	沖	雅人	香椎丘リハビリテーション病院	
弘島	菜巳	新小文字病院	：2015年5月				：2015年6月
片岡	璃菜	新小文字病院	：2015年5月	佐藤	桃子	香椎丘リハビリテーション病院	
西山	仁	新小文字病院	：2015年6月				：2015年6月
谷岩	温郎	新小文字病院	：2015年6月	田羽田	礼菜	香椎丘リハビリテーション病院	
天津	美和	福岡新水巻病院	：2015年6月				：2015年6月
田爪	琢大	福岡新水巻病院	：2015年7月	殿崎	雄太	香椎丘リハビリテーション病院	
植原	光一	福岡新水巻病院	：2015年8月				：2015年6月
鈴木	一聡	福岡新水巻病院	：2015年8月	浅野	晴子	香椎丘リハビリテーション病院	
山岡	唯花	新行橋病院	：2015年5月				：2015年7月
森田	大輔	新行橋病院	：2015年6月	福丸	桃子	香椎丘リハビリテーション病院	
高瀬	彩華	小波瀬病院	：2015年6月				：2015年7月
名越	千花	東筑病院	：2015年6月	吉岡	凌汰	白十字病院	：2015年5月
木村	誉志江	戸畑リハビリテーション病院		山野	美早紀	白十字病院	：2015年6月
			：2015年4月	山本	ゆき	白十字病院	：2015年7月
板倉	早希	戸畑リハビリテーション病院		八木	美咲	福岡和白病院	：2015年6月
			：2015年6月	矢野	理紗子	福岡和白病院	：2015年7月
清原	優里	戸畑リハビリテーション病院		鶴丸	大輔	千鳥橋病院	：2015年5月
			：2015年7月	福原	主浩	千鳥橋病院	：2015年7月
宇野	佳菜	介護老人保健施設 桜丘		林田	瞳	介護老人保健施設 ケアプラザ伊都	
			：2015年6月				：2015年5月
山下	友規	日明病院	：2015年7月	内間	由乃	寺沢病院	：2015年5月
片岡	大貴	Q-ACT北九州	：2015年8月	林	怜美	福岡みらい病院	：2015年6月
甲斐田	亮	小倉リハビリテーション病院		森田	敬紀	福岡山王病院	：2015年6月
			：2015年5月	天野	恵	福岡リハビリテーション専門学校	
二之宮	亜希子	特別養護老人ホーム 聖家族の家					：2015年7月
			：2015年5月	森	俊	長尾病院	：2015年7月
林田	彩夏	自宅	：2015年6月	合志	知子	福岡リハビリテーション病院	
木下	洋平	福岡青洲会病院	：2015年7月				：2015年4月
若林	早枝	福岡青洲会病院	：2015年6月	平嶋	悠	福岡リハビリテーション病院	
石田	真奈	福岡青洲会病院	：2015年4月				：2015年4月
島田	奈緒美	加野病院	：2015年7月	山川	智瑛	糸島医師会病院	：2015年8月
井上	侑季	桜十字福岡病院	：2015年6月	花田	智世	早良病院	：2015年7月
松尾	梨沙	桜十字福岡病院	：2015年7月	中山	涼介	九州中央病院	：2015年8月
笥	晴香	誠愛リハビリテーション病院		江原	直樹	上野病院	：2015年6月
			：2015年5月	小柳	美希	介護老人保健施設 なびき苑	
赤星	円	誠愛リハビリテーション病院					：2015年5月
			：2015年6月	木村	幸子	朝倉記念病院	：2015年5月
松下	航	誠愛リハビリテーション病院		猪立山	和也	朝倉記念病院	：2015年5月
			：2015年6月	畑中	麻耶	川崎病院	：2015年5月
長瀬	彰吾	誠愛リハビリテーション病院		堀之内	陽一	川崎病院	：2015年6月
			：2015年6月	中尾	早規	川崎病院	：2015年6月
末富	和也	誠愛リハビリテーション病院		徳永	竜也	川崎病院	：2015年7月
			：2015年7月	野口	耕平	高良台リハビリテーション病院	
美原	伸忠	誠愛リハビリテーション病院					：2015年6月

古賀 利貴	高良台リハビリテーション病院 ：2015年6月	太田黒 靖之	高齢者総合支援センター やまびこ ：2015年7月
香月 理恵	高良台リハビリテーション病院 ：2015年6月	高倉 広明	丸山病院 ：2015年8月
長野 亜祐美	高良台リハビリテーション病院 ：2015年7月	富川 可南子	自宅 ：2015年7月
白石 翼	八女リハビリ病院 ：2015年6月	池上 智美	自宅 ：2015年7月
塩川 あゆむ	八女リハビリ病院 ：2015年6月	<県内移動>	
小田 千尋	八女リハビリ病院 ：2015年6月	木村 明博	小倉第一病院 ：2015年4月 (浅木病院より)
今吉 夏蘭	八女リハビリ病院 ：2015年7月	高下 大地	大手町病院 ：2013年4月 (菊田病院より)
宮本 萌加	八女リハビリ病院 ：2015年7月	平賀 大貴	製鉄記念八幡病院 ：2015年4月 (産業医科大学若松病院より)
原田 雅代	聖マリア病院 ：2015年6月	覚野 陽子	戸畑リハビリテーション病院 ：2015年4月 (あやめ訪問看護ステーションより)
藤武 真巳	聖マリア病院 ：2015年6月	藤崎 実知子	福祉用具プラザ北九州 ：2015年6月 (ひすい訪問看護ステーションより)
牧内 文佳	聖マリア病院 ：2015年7月		北九州中央病院 ：2015年7月 (北九州古賀病院より)
島村 彩	柳川リハビリテーション病院 ：2015年7月	高橋 順二	サポートセンター本城 ：2015年3月 (自宅より)
伊東 三佳	柳川リハビリテーション病院 ：2015年7月	川崎 美保	株式会社 総合管理 ：2015年5月 (直方中村病院より)
宮崎 朱里	柳川リハビリテーション病院 ：2015年7月	生津 哲也	小波瀬病院 ：2015年3月 (福岡和白病院より)
福島 益奈	柳川リハビリテーション病院 ：2015年8月	照喜名 重成	あおぞらの里 小文字訪問看護 ステーション ：2015年3月 (あおぞらの里 徳力デイサービスセンターより)
奥園 絵里加	みさき病院 ：2015年5月	長岡 美保	デイサービスいきがい元気塾・ やりがい文化村 ：2015年7月 (大手町病院より)
北原 弘香	みさき病院 ：2015年6月	渡邊 亜沙美	チェリッシュ (合同会社フィールド) ：2015年8月 (やまびこ学園より)
西山 美沙子	みさき病院 ：2015年6月	島崎 彩加	自宅 ：2015年4月 (大平メディカルケア病院より)
坂田 翔	神代病院 ：2015年6月	榎木園 麻理	自宅 ：2015年6月 (みずほデイサービスより)
一富 理恵	神代病院 ：2015年7月	前田 祐子	自宅 ：2015年6月 (福祉用具プラザ北九州より)
木村 大輔	神代病院 ：2015年8月	下村 亮輔	自宅 ：2015年4月 (北九州市立小倉南障害者地域活動センターより)
荒巻 陽一	菅原病院 ：2015年6月	大野 恵	介護老人保健施設 宗像アコール ：2014年6月 (新吉塚病院より)
川添 法子	甘木中央病院 ：2015年6月	宇都宮 しのぶ	自宅 ：2015年8月 (デイサービスセンターあいあい高木より)
井手口 恵美	いきいき稲富訪問看護 ステーション ：2015年6月	小淵 聡子	介護老人福祉施設 けやき ：2015年4月
大石 裕太	大牟田天領病院 ：2015年6月		
高山 皓	デイサービス こすも ：2015年6月		
西島 和秀	聖ヨゼフ園 ：2015年7月		
西山 賢太郎	長田病院 ：2015年6月		
石井 亜美	田主丸中央病院 ：2015年7月		
野田 南々美	田主丸中央病院 ：2015年7月		
居石 彩希	田主丸中央病院 ：2015年7月		
森川 さゆり	宅老所モモタロウあらき ：2015年7月		
那住 理緒	筑後吉井こころホスピタル ：2015年7月		
橋本 徹也	安本病院 ：2015年7月		
酒井 美彩野	堀川病院 ：2015年7月		
宇都 美咲	堀川病院 ：2015年8月		
石井 孝征	久留米リハビリテーション病院 ：2015年7月		
田中 直斗	高木病院 ：2015年8月		
篠原 翔	高木病院 ：2015年8月		
江田 賢志	浮羽クリニック ：2015年8月		
井浦 仁美	福岡志恩病院 ：2015年8月		

		(牟田病院より)			(柳川リハビリテーション病院より)
才津 慶子	晴明病院	: 2015年1月	松尾 香織	有明総合ケアセンター	: 2015年5月
		(久留米リハビリテーション病院より)			
伊藤 悦子	福西会病院	: 2015年4月			
		(福西会南病院より)	表 博紀	おおかわ訪問看護ステーション	: 2015年5月
吉田 泰子	福岡大学筑紫病院	: 2014年4月			
		(訪問看護ステーションももち より)			
大平 紀子	福岡市早良区精神障がい者 相談支援センター	: 2014年8月	平塚 剛	高木病院	: 2015年3月
		(地域活動センター I 型 ぷらっと より)			
竹本 祐樹	障害者支援施設 まどか園	: 2015年5月	大熊 幸	サンライフ聖峰	: 2012年4月
		(障がい者支援施設 わかば苑より)			
池松 晃基	福岡市医師会成人病センター	: 2015年4月	糸田 竜彦	田主丸中央病院	: 2014年4月
		(福岡山王病院より)			
矢部 恵律香	さくら病院	: 2015年8月	松尾 春菜	介護老人保健施設 ハッピーライフ	: 2015年8月
		(原鶴温泉病院より)			
阿部 久恵	自宅	: 2015年7月	生駒 英長	自宅	: 2015年7月
		(南ヶ丘訪問看護ステーション ききょう より)			
岡本 かほる	自宅	: 2015年7月			
		(木村病院より)			
関 泰子	自宅	: 2016年6月			
		(水城病院より)			
池 祐里	自宅	: 2015年8月			
		(シーサイド病院より)			
織田 亮介	石田病院	: 2015年5月			
		(稲築病院より)			
藤村 恵	一本松すずかけ病院	: 2015年5月			
		(河内病院より)			
江夏 浩亮	嘉麻良創夢デイサービスセンター	: 2015年7月			
		(良創夢デイサービスセンター飯塚店より)			
上門 恵	自宅	: 2015年9月			
		(就労支援センターsoraより)			
武藤 浩二	日高整形外科病院通所リハビリ テーション	: 2015年6月			
		(耳納高原病院より)			
森本 周作	朝倉医師会病院	: 2014年6月			
		(介護老人保健施設 アスピア より)			
吉田 麻美	柳川リハビリテーション病院	: 2015年5月			
		(おおかわ訪問看護ステーションより)			
川口 善久	やながわ訪問看護ステーション	: 2015年5月			
		(有明デイサービスセンターより)			
緒方 健造	おおかわ交流プラザ通所リハビリ テーションセンター	: 2015年5月			
		(高木病院デイケアセンターより)			
山本 顕史	介護老人保健施設 グリーン ビュー希望ヶ丘	: 2015年4月			
		(八女リハビリ病院より)			
村田 宣啓	柳川リハビリテーション病院 デイケアセンター	: 2015年1月			

<退会者>

松尾 涼太	: 2015年5月
豊 奈津美	: 2015年5月
山崎 千恵	: 2015年5月
町本 周平	: 2015年5月
尾上 諒介	: 2015年5月
大久保 倫子	: 2015年6月
木場 朝美	: 2015年6月
清原 凡代	: 2015年7月
柴田 萌	: 2015年7月
福井 俊郎	: 2015年7月
照瀬 成美	: 2015年8月

会員の皆様へ

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もございます。異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入ください。

異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ(<http://www.fuku-ot.org/>)へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

TEL 093-952-7587

編集後記

今回の特集は認知症の人と家族への支援についてです。最近、認知症の人へのケアと共に、家族介護者へのケアの必要性が注目されるようになってきています。そこで重要になるのが心理教育です。認知症の人への介入よりも、家族への介入のほうが効果的にBPSDの軽減を図れる場合もあります。

作業療法士の対象は多岐に渡りますが、一般の方への認知度はまだまだ低いのが現状です。以前に比べれば「作業療法」という言葉は知られるようになったかもしれませんが、しかし、作業療法士に何ができるのか、その中身についてはあまり知られていないと思います。私たちは自分たちの職種に求められているものを察知し、作業療法士に何ができるのかを示していく必要があると思います。一人一人が作業療法を広報できるような意識を持つことが大切です。

現在、福岡県作業療法協会のウェブサイトでは来年度のリニューアルに向けてウェブアンケートを実施中です。会員の皆様のご意見を少しでも反映できるようにリニューアルしていきたいと思うので、ぜひアンケートにご協力ください。よろしくお願い致します。

(許山)



国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

福岡キャンパス (福岡県福岡市)
大川キャンパス (福岡県大川市)

医療福祉学研究科

修士課程	保健医療学専攻 作業療法学分野／理学療法学分野／言語聴覚分野／リハビリテーション学分野／看護学分野／助産学分野／助産学分野（福岡）／医療福祉教育・管理分野 等
	医療福祉経営専攻 医療経営管理分野／診療情報アナリスト養成分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉学分野／医療福祉ジャーナリズム分野

博士課程	保健医療学専攻 作業療法学分野／理学療法学分野／言語聴覚分野／リハビリテーション学分野／看護学分野／助産学分野／視機能療法学分野／福祉支援工学分野／放射線・情報科学分野／生殖補助医療胚培養分野／医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉学分野／医療福祉ジャーナリズム分野／医療福祉心理学分野
------	--

修了者数

修士課程 (平成12～26年度)	■保健医療学専攻	1,372名
	・作業療法学分野	93名
	■医療福祉経営専攻	506名
博士課程 (平成15～26年度)	■保健医療学専攻	204名
	・作業療法学分野	8名



- ◆多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。eラーニング科目も充実
- ◆福岡・大川・大田原・東京青山・小田原・熱海に6つのキャンパスを設置
- ◆医療福祉における第一人者の講義を、複数のキャンパスで受講できる「同時双方向遠隔授業システム※」

※専攻、分野によっては、受講できるキャンパスが限られているものがありますので、詳細につきましてはお問い合わせください

*修士課程は、短大・専門学校を卒業した満22歳以上の方も受験可能

分野・領域についてのお問い合わせ・資料請求先

福岡キャンパス	〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-4-16 TEL 092-407-0434 E-mail fukucamp@iuhw.ac.jp
大川キャンパス	〒831-8501 福岡県大川市榎津137-1 TEL 0944-89-2000 E-mail ooocamp@iuhw.ac.jp

URL <http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>